入善町報

発行所　入善町役場
編集発行　責任者　中田憲政
印刷所　田中印刷所
定価1部5円

黒四協定四項目 示された具体案検討

町の態度を練る

冷水害対策協議会臨時委員総会

十一月七日午後一時から中央公民館で「入善町黒部川冷水害対策協議会臨時委員総会」が開かれた。

協議の中心議題は、関電と黒部川冷水害対策期成同盟会（関係市町で結んでいるもの）との間に結ばれた「黒四発電に伴う四項目」の実施についてであるが、関電が示した実施内容及び県が調査した結果に対して検討し、本町の態度を決定した。

示された協定内容等

第一項　表層取水の問題
御前沢堰堤の表層水取水の設備は、ダムの最高水面から三四メートルのところまで中八メートルのゲート設備をする。ダムの水位が下るごとに五メートルのゲートをおろして放水する。

第二項　愛本の分水設備
第三項　猫又発電の放水を交叉して本流を通す設備
県の調査研究によれば、猫又発電所の放水と本流と交わらないよう本流を交叉直結する設備は技術的に可能である、という

第四項　流水客土の問題
昭和三十三年末までに国が既設発電の冷水被害の補償を立法化しない場合関電が地元、県と協議して流水客土を行うという約束である。

ところが、本年末までに国が立法化さないことが明らかになった。

町の態度につき協議

黒四協定四項目の状況は以上のような次第であるので、これに対する黒部川冷水害対策期成同盟会――沿岸市町の――の意志をきめる場合、本町の態度を決めておくため、各項目について協議し、次のような交渉方針を定めた。

第一項について
表層取水ゲートは、渇水時を考慮して五〇メートルまで下げること。五メートルづつ下げるゲートを二メートルづつ下げることにすること。

註
巾五・五メートルのゲートを五メートルおろすと毎時五四トンの水を流すことになる。
このゲートを二メートルさげて五四トンの水を流す場合は、巾約一二メートルにする、巾五・五メートルのものを二～三個つくらねばならない。

第二項について
愛本発電所の放水と本流とを分離する場合、右岸用水温（入善町側）を左岸用水温（黒部市側）まで引上げること。（従来右岸は一度低かった）
また、かんがい必要水量を、柳河原から本流へ流すこと。

第三項について
猫又での本流交叉は、県の検討のようにしてもらうこと。

第四項について
協定どおり流水客土を実施してもらうこと。

参考資料

表層取水開始の放水温度

月	日	放水温度	60m の下の取水	ダムの地点 現在
6	15	6.1	5.3	6.1
6	30	8.3	6.0	7.1
7	15	10.8	6.6	8.7
7	31	12.5	7.5	10.7
8	15	15.0	8.8	11.8

註
発電用水路は六〇mの下

第十回臨時町議会

第十回入善町議会臨時会は十月三十日開会

1. 消防用小型動力ポンプ購入契約締結に関し同意を得るの件
(1) 新屋分団　二九二、〇〇〇円
(2) 小摺戸分団　二七〇、〇〇〇円
(3) 飯野分団　二〇〇、〇〇〇円
(4) 横山分団　二五五、〇〇〇円

2. 寄附採納の件
(1) 横山地区公民館の備品購入費十万円
釧路市　浜木源作

以上二件につき審議、議決した。

なお、緊急提案として柚木議員外三議員から警察官職務執行法の一部を改正する法律案の撤回について提案があったが、採決の結果否決となった。

12月のごよみ

一日（月）　映画の日
歳末援げあい運動展開
四日（木）　人権擁護週間（十日まで）
八日（月）　太平洋戦争勃発記念日
針供養
世界人権デー
十日（水）　年賀郵便取扱開始
十二日（月）　農業協同組合記念日（二十八日まで）
冬至
三日（月）
二五日（木）　クリスマス
二日（土）　役所の御用納め
三日（水）　大晦日
固定資産税納期
大安の日　六日　十一日　十七日　二十三日　二十九日

入善 今年の犯罪白書

歳末は、犯罪の多くおこる時期です。町では防犯運動もさかんに行われます。しかし、今年の犯罪のすがたをふりかえってみることも、また、大切な防犯だと思います。

今年の犯罪は、県下ではやや減りました。しかし、強かんなどおそろしい犯罪は、一二〇%も増えているのです。入善警察署では次の表のとおりです。

▼犯行時間のしらべ
全国の統計をみますと、どろぼうは、真夜半、夜、書過ぎが一番多くなっています。最後の表をご覧下さい。

犯罪の種類と検挙状況

	基本	検挙
強盗	3	3
暴行	8	8
傷害	50	50
強制わいせつ	31	31
恐喝	7	7
窃盗	36	35
詐欺	62	61
横領	38	37
殺人	1	1
放火	1	1
強かん	1	1
傷害	74	67
暴行	26	26
脅迫	7	6
恐喝	8	8
窃盗	36	35
詐欺	62	61
横領	38	37

▼侵入口しらべ
お気づきですか、どろぼうは、表玄関から入っています。
どろぼうや強盗のしのびこむ所を調べてみますと、次のようです。
①表出入口　一八件
②その他の出入口　五件
③横出入口　四件
④勝手の窓　二件
以上のほか、壁を破って湯殿や店舗から入っているのもあります。
全国的には、表出入口、横出入口、勝手口がねらわれています。

▼戸締りのしらべ
戸締りをしましたか。
では、一体戸締りはどうなっていたのでしょうか。
①戸締なし　一七件
②カギのかけ忘れ　七件
③雨戸のかけ忘れ　三件
④ちょうつがいをはずす　二件
このように、半分以上は戸締りのしない所から入っているのです。
そのほか、ガラスを破ったり、心張棒をはずしたりするのも見られます。
全国の統計も大体同じ傾向となっています。

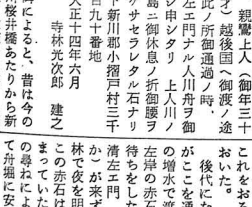
▼犯罪の原因しらべ
最近の犯罪のもとを見ますと、遊び過ぎや短気がもとのようです。
①むだ使いや遊び過ぎ　六〇件　二〇%
②短気や社会すね　五四件　一八%
③酒を飲み過ぎて　二六件　九%
④出來心から　二一件七%

▼被害調べ
洋報、布地が

高校体育館の落成

入善高等学校では昨年末からかかっていた体育館の新築工事が完成し、十一月七日、同校創立十周年記念式に併せて盛大にその落成式を行った。

この体育館は、鉄筋コンクリート建六三四㎡（一九二坪）附属ステージ九九㎡（三〇坪）計七三四㎡（二二一坪）の豪壮なものである。総工事費は一、三五〇万円を要し、県費支出のほか体育館分の1/3は地元負担、ステージ分は同窓会やPTAで、という形で、計五五〇万円の地元負担（内三〇〇万円は町費支出）で賄われた。


（高校体育館）

なべ底景気だ！ 火事だけはご免

冬が近づくにつれて、火災の発生数は次第に多くなる。その原因は暖房などの火の使用がふえることによるが、さらに重要な要素として気象の条件が加わる。

秋から冬にかけてはシベリヤ大陸方面には高気圧がはりだし、冷たい乾燥した季節風が日本近海から中部山脈に吹きあげ上昇して冷却し、このため日本海側では冬季に曇り がちの日がつづき、強い風が吹く。一方太平洋側では、湿度が低くなり晴天の日がつづき、強い風が吹く。とくに関東地方や東海道地方では、中部に高い山脈をひかえているためフエン現象がおこるので火を使うことの多い冬のことと、表日本では火事が多くなる。

最近電気機具の使用が多くなり、火の用心の外に、「電気用心」が必要になってきた。電気による出火原因は

1. 不良電気機具のため
2. 電気会社の手にふらげ不完全な不正電気使用によるもの
3. 電気機具取扱いの不慣れのため特に電気アイロンや電熱器のつけっぱなし

などによるから、十分注意をしなければならない。

町の消防署では十一月末から十二月初めにかけて、「かまど」、「こたつ」、「とり灰」などの実態を各戸について調べ、注意を喚起することになっている。

風が吹く。とくに関東地方は、冬季海道地方では、中部に高い山脈をひかえているためフエン現象がおこるので火を使うことの多い冬のことと、表日本では火事が多くなる。

この冬は、冬型の気圧配置が衰え、移動性高気圧や低気圧の影響で、裏日本ではとくに大火が多くなる。

このように火事は気象によって大火になることを考えれば天災めいてはいるが、完全におたがいの注意によって防げる災害である。火の元に十分注意するほか、失火のときは一秒間も早く消防署（一三五番）へ通報してください。

入善町風土記

…52回…

親鸞聖人の遺蹟 1

舟堀の衣掛けの石

竹内慎一郎

昔、親鸞上人（御年三十五才）越後国（御渡ノ途中此ノ所御通過ノ時、清左エ門ナル人川舟ヲ御越シ申シタリ　上人川ノ中島ニ御休息ノ折御腰ヲ掛ケサセラレタ石ナリ　下新川郡小摺戸村三千百九十番地　大正十四年六月　寺林光次郎　建之

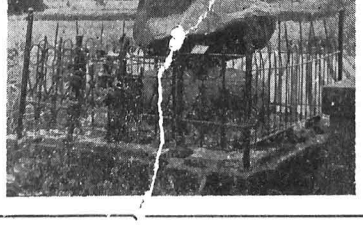
口碑によると、昔は今の黒部川桜井橋あたりから新屋を経て大家庄に達する道が官道（街道）で、旅人は多くこの道を通った。その頃、黒部川は今の舟堀を流れ、舟堀に舟渡場があったという。

或時、立山権現という人が当地に来て折悪しく黒部川が洪水で渡られないので広々とした美しい草場に一宿した。その時、美しいみかげ石をみつけ、「これは鳥の卵によく似ているから、今後鳥の子石と名づけ休息しよう」といって、この石を大きな杠の木の幹のまたにのせておいたのではずれ、後の人がこれをおろして松林の中においた。

後代になって、親鸞聖人がここを通過の折、黒部川の増水で渡ることができず左岸の赤石に腰をかけて舟待ちをしたが、渡守舟越の清左エ門、（根根松助氏先祖）が来て、その日はその林で夜を明かした。その後この赤石は永い間土中に埋まっていたが、大谷派本山の尋ねにより漸く堀り出して舟場に安置し、今日に至っているのであるという。

尚、一説に、親鸞は「鳥の子石」に衣をかけ、他の人が江戸から来て、青木から来た佐竹宗左エ門（佐竹柴吉氏の祖先）と力を合せ、立山権現が一宿したという草場の南方の平地を開墾して一宿新と名づけたに始まるという。

また、之等の人々が村の繁栄を祈念し、「鳥の子石（衣掛けの石）」を氏神として祀った（一宿神社由来）ともいう。



町財政事情の公表

32年度 七九〇万円の黒字

このほど九月三十日付をもって米沢町長から町財政事情の公表があった。

これによると、本町の財政再建のあゆみは順調で、昭和三十二年度の決算は、財政調整資金として五百万を積立てたほか、二百九十万余円を翌年に繰越し、合計七百九十万余円の黒字をもって結ぶことができたといっている。

昭和三十三年度の現況については、当初予算一億二千六百六十五万五千円のところ、九月末までに三回の追加更正をしたことによって、現在予算額は一億五千二百八十八万千円に達している。この主な内容は、投資的事業費三千八百五十万円、消費的経費九千万円（うち西入善駅新設地元負担金を含む）、公債費二千三百五十七万円等となっている。

財政再建計画という限られたワク内で、四千万円近い投資的事業を行うため、諸経費は極度に節約をなすほか、歳入面では税収入、地方交付税などの一般財源はほとんど出つくしているので、今後の予算の追加更正は、一層の慎重をするとされている。

（左表の数字は、千円未満は四捨五入してある）

昭和32年度予算及決算

歳入　（単位千円）

款別	最終予算額	決算額	増減（△）
税	90,272	89,979	△ 293
付産担用	19,241	19,882	641
交・財負使	195	217	22
方・業・金・支出	4,301	4,323	22
企・料	1,711	1,725	14
営・使	15,254	14,792	△ 462
担・支	13,644	13,803	159
数・附	3,686	3,686	
庫・越	8	8	
支・収	2,180	2.425	245
当・入	4.000	4.000	
債	154,493	154,841	348
計	6,643	6,643	
繰越事業費財源充当額	161,136	161,484	348
合計			

歳出

款別	最終予算額	決算額	増減（△）
議会費	2,435	2,409	△ 26
役場費	24,462	24,461	△ 1
消防費	7,433	7,372	△ 61
土木費	8,639	8,262	△ 377
教育費	23,987	23,706	△ 281
社会働費	17,820	17,234	△ 586
保施設費	2,367	1,963	△ 404
衛生費	6,693	6,628	△ 65
労働費	217	185	△ 32
衛生費	745	744	△ 1
産業費	22,843	22,707	△ 136
商工費	11,941	11.801	△ 140
土木費	24,902	24,466	△ 436
諸支出金	10		△ 10
予備費	154,493	151,939	△ 2,554
繰越事業費	6,643	6,643	
繰越歳出	161,136	158,582	△ 2.554
合計			
歳入歳出差引額		2,903	

昭和32年度特別会計予算及び決算

種別	歳入決算額	歳出決算額	残額
国保事業勘定	41,310	38,480	2,830
直営診療施設勘定	4,954	4,295	658
簡易水道	363	362	1

第一回町民体育大会

国体さながらの盛況

十一月九日、入善中学校庭において第一回町民体育大会が催された。

朝のうちは天気がよかったので、花火の号砲を合図に各地区ごとに体協旗をおし立てて選手や応援団がひしひしと会場につめかけている。午前九時、予定のとおり集合を終り、同九時半入場行進を開始。まず、入善中学校生徒のブラスバンドを先頭に、国旗、大会旗の入場続いて役員団、各地区ごとに体協旗をはためかしつつ選手団一千余名の見ごとな入場行進が行われた。

かくて、広野大会委員長の開会宣言、国歌齊唱、大会長米沢町長の挨拶、松田議長の祝辞、長島競技部長代表の宣誓など型のごとく行われ、午前十時、一〇〇メートル競争を皮切りに競技が開始された。

競技種目が進むにつれ、折悪しく雨が降り出し、ついに午後〇時半、競技目の半ばを残したまま閉会が宣せられた。

町民体育大会は、本来なら、町村合併とともに催されるべきであったが、地区体育協会などの組織がなく全町一本にまとめあげた大会にもって行きにくい状態だったので、町費から補助金を出して、各地区ごとに行っていたのであった。本年は丁度合併五周年の記念すべき年でもあり、国民体育大会が富山県で開催された影響で、スポーツ一般に体育の理解が進んだことなどによって、この大会を開く気運が高まった。区長会では、この空気を捉えて、あらゆる障害を排除して大会開催にまで運んだのであった。

この大会は、雨のため、折角張り切っていたのに、めちゃめちゃになったとはいえ、

1. 全町一円融合の姿がみられたこと
2. 厳粛壮重な入場式は、国体にも劣らないもので、深い感銘を與えたこと
3. 雨のため、普通ならば会場が混乱するはずなのに、整然としており、よく統制がとれていたこと
4. 雨中にもかかわらず、出場選手の意気が盛んであり、スポーツマンシップの守られた競技が進められたこと

など、数々の美点が見られ本大会の有意義だったことを認めない者はなかった。

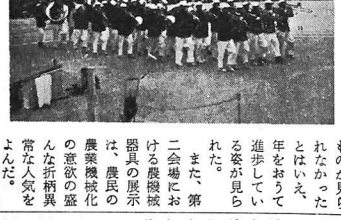
なお、大会の副次的効果として、地区体育協会の結成を促進したことも見のがしてはならない。

雨に濡れながら帰える町民たちの口から〝来年こそは〟と来年に期待をかけている意気に感じ、町当局も来年は大会予算を見たいといっており、大会幹部側では、国体旗リレーになぞらえ、来年は町体旗リレーをも行いたいと意気込んでいる。

農産物の品評会

十一月七日から九日まで入善高等学校で、同校学園祭に併せて第七回入善町農産物品評会が催された。

本会場の出品点数は、穀菽類一四〇点、野菜類一九五点、果実類二八二点、その他三三点、合計六五〇点七四点という盛況であった。



秋の天候が悪かったことは、野菜類などに優秀なものが見られなかったとはいえ、年をおうて進歩している姿が見られた。

また、第二会場における農機械器具の展示は、農民の農業機械化の意欲の盛んな折柄異常な人気をよんだ。

入賞状況は次のとおり。

一等　玄米　小路信義
〃　入高　小森幹雄
〃　玉葱　飯田作
〃　葱　青木庄一
〃　柿　大角秀尚
〃　入　寺崎元貞
〃　新　竹田心一
〃　飯

食生活の改善 ―2―

合理的な食事は、寿命とか、体格、仕事の能率などに極めて有効であり、それに反して、無駄の多い食事は、いかに量を多く食べても、健康には、悪影響がある。

日本人は残念ながら、後者の方である。食習慣を、どうかして、除々にでも改善し、栄養の向上に努めなければならない。

そこで、合理的な食事とは、どんな食事がよいか。

まず、最近の国民栄養調査を調べて、そこから色々と欠陥を見出し、反省してみよう。そうすることが、そうすることが、ひいては、合理的な、無駄のない食事、すなわち、食生活の改善ともなろう。

第一に掲げなければならない点は、白米食第一主義――お米の過食である。

お米さえあればといった考え方の食習慣をまず打破することが必要であろう。

なるほど、お米は味もよく、舌ざわりもよく、われわれの嗜好に合っている。しかも栄養価も悪くはない。にもかかわらず、お米を余り食うな、と繰り返し叫んでいるのは、お米の偏食からくる害、副食をとる量が少く、質もかたよって不均衡な栄養となって、高血圧症、胃病、その他抵抗力のない体質となり、外見上は健康そうに見えるが、潜在的な栄養欠陥をもった不健康な状態となって、寿命を短くし、国民全体の健康状態をいちじるしく害しているといえる。お米の過食、食や偏食による栄養学上の欠陥は、日本人の全体に及ぶ欠陥の第一として掲げなければならないことは、残念なことである。

それでは、お米の代りにメリケン粉はどうであろうか。お米とメリケン粉と栄養価はどちらがよいか、と聞く人がいる。事直にいってお米もメリケン粉も栄養価は、本質的にはほとんどかわらないのであってむしろ味の上では、お米の方が上である。

メリケン粉で作ったものでは、味がわるいから、副食の方に十分気をつけなければならぬ。お米の場合のように、かんたんに漬物、梅干ではパンはのど通らないので、副食は努力をはらうことになる。ここに均衡のとれた食生活が生れてくる。

（厚生省の発表したもの）

歳末援け合い運動

最近の生活は安定してきたが、尚一割余にのぼる生活困窮者があるといわれ、また引揚者未帰還留守家族が極めて不安定な状態におかれている。いよいよ歳末を迎え、かかる境遇を町民たすけあいによって援助するため、十二月中を社会福祉月間として強力な町民運動をおこし、これらの人々に明るく年越しをさせてあげたいものである。

募金目標　一世帯十円以上

母子センター地鎮祭

かねて交渉中であった母子健康センターの敷地は西解放の四人町原旅館裏に決定したので、十一月十一日建物建設の入札を行った。

建物は、平家建六七・八七坪であるが、入札の結果二〇六万円をもって柴垣組が請負い、同十九日その地鎮祭を行った。

新語教室

コミュニケ　会議内容に関する正式発表
サロン　客間、美術展覧会場
シック　いきな、しやれた
スクラム　腕を組み合うこと
トピック　話題
シーン　場面、光景
コンプレックス　無意識のうちに植えつけられた記憶よく劣等感という意味に使われている。
ストリル　戦慄、身ぶるいする感じ
コントロール　統制、調節
デコレーション　装飾
デコレーションケーキはクリスマスなどに使うお菓子

入善図書館新着図書

風俗辞典　森末義彰
年中行事辞典　西角井正慶
にこちあな煙草考　石崎重郎
新撰経営学辞典　山城章
朝鮮　金達寿
枯土に書かれた歴史　板倉勝正
ナイルの叛乱　井上幸治
解放の囚人　阿部知二
株のやり方儲け方　益田金六
不動産取得税相談　森清
相続税相談　白崎浅吉
原子力と国際政治　前田壽
新・サラリーマン論　村田宏雄
国民教育　日教組情宣部
宇宙入門　近幾大学
すぐ役立つお蔗と育児の心得　佐藤亘
日本農業読本　馬場啓之助
日本資源読本　小出博
ニワトリと家畜の宝典　桜井弘
化学肥料の特性と使い方　松本五楼
飼料としてのサツマイモ　森本宏
イチゴの増収技術　二宮敬治
新時代の農家経営と生活　近藤正
年中行事農作業要覧　足立武二
農作業要覧　位田藤久大郎
柵と蔬菜のビニール栽培法　天辰克巳

区長の異動

入善八区　佐田良作

本紙五十号記念

保存の方へ記念品

入善公民館報、入善町報を通じて五十号となったことを記念するため、九月号十月号でご案内した通り、全部保存しておられる方でお知らせのあった次の五名の方に記念品を呈上しました。

記念品贈呈の方

福島新　米沢良吉さん
入善　山崎みよ子さん
入善　竹内統三さん
青木　西田市郎さん
入善　米沢元健さん
入善　四十物彌六さん

なお、保存上欠号の方はおいで下さったら、できるだけご便宜をはかります。